

こうみょう

この如来は光明なり。光明は智慧なり。

智慧はひかりのかたちなり。

親鸞聖人著作『一念多念文意』

このたび、二〇一六年四月二十八日に、本山・東本願寺におきまして、光明寺第四世住職を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

住職就任にあたり、光明寺というお寺、そして浄土真宗の教えをより多くの方々に知っていただくことを願い、三つの広報を始めることにいたしました。

一つ目は、掲示板の設置です。すでにお寺の玄関前に設置いたしましたので、ご覧ください。

二つ目は、インターネットによるホームページの開設です。こちらも開設済みですので、最後のページで詳しくお伝えいたします。

そして三つ目が、この光明寺通信「こうみょう」の発行です。ここではお寺からの発信だけではなく、皆さまからの声も紹介していきつつ、人と情報が交流する場所になりたいと思っておりますので、たくさんのご意見をお聞きしてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



真宗本廟（京都・東本願寺）

第1号

2016年8月1日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

メールアドレス：

koumyouji@sky.plala.or.jp

「巻頭のつとば」について

この如来は光明なり。光明は智慧なり。

智慧はひかりのかたちなり。

『一念多念文意』

この『一念多念文意』という書物は、親鸞聖人が八十五歳の時に書かれたものと言われております。親鸞聖人の著作は、その多くが七十五歳を過ぎてから書かれており、驚くべき気力と体力だと思えます。

今ここで述べられている、「如来」とは、阿弥陀如来のことを言われています。阿弥陀如来は実在した人間ではありません。親鸞聖人は、阿弥陀如来という仏様は、「光明」つまり「ひかり」なのだとされます。そしてその「ひかり」とは、まことの智慧（教え）であって、言い換えれば、仏の教えが、私たちを照らす「ひかり」ということの具体的な表れなのだとされます。

私はこの言葉が好きです。もちろん、私たちのお寺が「光明寺」と名告っていることもあり、様々な機会を通して、皆さまにも親しみのある言葉になることを願っております。さて、「ひかり」に照らされるとは、どう

いうことであると思われるでしょうか。もしかしたら、良いことが起きるとか、病気が治るとか、人生が劇的に転換する、と思われる方もいらつしやるかもしれません。しかし、残念なことですが、そのようなことはお約束できないので、否定せざるを得ません。そもそも、宗教に期待することではありませんね。では、「ひかり」に照らされるとは、どういうことなのでしょう。例えば、真つ暗な部屋にいる時、自分の姿は見えませんが、ひとたび明かりに照らされると、その姿が見えてきます。私たちは「ひかり」照らされてはじめて、存在を確かめることができるのです。親鸞聖人は、「ひかり」とは智慧だとおっしゃいます。つまり、仏の教えに照らされてはじめて、私たちは、本当の自分というものを知ることができるのです。いま、この私が、どのような世界を生き、どのようなのちを生きる者なのかを教えてください。それはたつきが「ひかり」なのです。ですから、「ひかり」に照らされるということは、自分自身の姿がはつきりと照らし出され、「ありのままの」私に出遇であわせてくださる大切なご縁だと受け止めています。光明寺が、そのようなお寺になることを願っています。

掲示板を設置しました!!

二〇一六年五月末、ご門徒さんの協力をいただき、ついに掲示板を設置しました。月が替わるごとに言葉を変えていくつもりですので、ぜひご覧ください。左側の柱には、掲示してある言葉について、ちょっとした感想を書いておりますので、お持ち帰りいただきたいと思えます。

今後とも、ご期待ください!!



仏事について……ことが知りたい!

お身内が亡くなった時の

通夜・葬儀までの流れ 〳〵その一例〳〵

ある日、お寺に電話がかかってきました。それは、がんを患い、ここ一年は治療のために入退院を繰り返している村田さん（仮名）の息子さんからでした。今回の入院が、いよいよ最後になるであろうと、今後の相談をしたいということでしたので、すぐにお寺に来ていただいて、お話を聞きました。

私からは、このように申しあげました。

「お亡くなりになったら、まずはお寺へご連絡ください。私から葬儀社へ連絡し、すぐに病院へご遺体のお迎えに行ってもらいます。ご遺体は、一度ご自宅へお帰りいただいて、まずは近親の方と一緒に勤め（お参り）いたしましょう。その時に、葬儀の日取りや、会場についてご相談いたします。葬儀社に会場をお借りしても結構ですが、お寺でも葬儀は出来ます。本堂にはお内陣がありご本尊がありますので、祭壇を飾る必要がありません。ただし、光明寺は小さな寺ですので、会葬者が多くいらっしやるのでしたら、葬儀社で行

ってもいいかもしれませんね。その時は私からご紹介いたします。経済的なことやお付き合いのこともあるでしょうから、ご家族の意見もお聞きしながらご相談しましょう。」

結局、村田家の通夜・葬儀は、お寺で執り行われました。もともとお寺のご近所にお住まいでしたので、お付き合いのあった方々がお参りに来られるのにはいいだろうということでした。しかし、息子さんの会社関係の方が思っていた以上に多くお参りに来られ、お齋を召し上がっていただく客間がいっぱいになってしまいました。

葬儀の後は火葬場までお供して、火葬の間に息子さんと今後のことについていろいろとお話をしました。その時、息子さんがこんな感想をおっしゃってくださいました。

「お寺の本堂で葬儀ができるとは思っていませんでした。やはり、落ち着いて通夜・葬儀の時間を過ごせたように思います。なにより、亡くなった父と一緒にいる時間を大切にできました。ご住職と話す機会も多かったので、浄土真宗の仏事作法などについてもお聞きすることができてよかったです。」

大切な方を亡くすことは一大事です。気も動転してしまうでしょう。ですから、まずはお寺に連絡して、一緒に進めていきましょう。

◆私たちの宗旨は浄土真宗です◆

【本尊】

阿弥陀如来

【正依の経典】

仏説無量寿経（大経）

仏説観無量寿経（観経）

仏説阿弥陀経（小経）

（浄土三部経）

【宗祖】

親鸞聖人

【宗祖の著】

顕浄土真実教行証文類（教行信証）

【宗派名】

真宗大谷派

【本山】

真宗本廟（京都・東本願寺）

【所在地】

京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地

年中行事のご案内

二〇一六年 年忌法要 (亡くなった年)

四十九日法要…亡くなった日から四十九日

一周忌法要…二〇一五年(平成二十七年)

三回忌法要…二〇一四年(平成二十六年)

七回忌法要…二〇一〇年(平成二十二年)

十三回忌法要…二〇〇四年(平成十六年)

十七回忌法要…二〇〇〇年(平成十二年)

(二十三回忌法要)…一九九四年(平成六年)

二十五回忌法要…一九九二年(平成四年)

(二十七回忌法要)…一九九〇年(平成二年)

三十三回忌法要…一九八四年(昭和五十九年)

五十回忌法要…一九六七年(昭和四十二年)

◎永代経…毎年、五月の第二日曜日

亡くなった方々をご縁として、今を生きる私たちが仏の教えに出会う法要です。

どなたでもご参詣いただけます。

お寺へご連絡ください。

◎報恩講…毎年、十一月の第二日曜日

親鸞聖人の御命日は十一月二十八日と伝えられています。親鸞聖人からいただいた

ご恩に報いる生活を、お一人お一人が確かめるための法要です。

どなたでもご参詣いただけます。

お寺へご連絡ください。

住職継承法要

昨年春、先代が還浄(いのちが浄土へ還る)いたし、今年の四月二十八日に本山において住職の任命を受けてまいりました。光明

寺第四世住職の継承法要を、今年の報恩講に合わせて厳修致します。

ご案内は、例年ご参詣いただいている方とお盆・お彼岸にお伺いしているご門徒のみとさせていただきます。

ご参詣をご希望される方は、お寺へご連絡

ください。

◆ホームページを開設しました◆

念願の、光明寺ホームページを開設しました。

パソコンとスマートフォン(タブレット)で見ることができますので、ぜひ一度ご覧いただきたいと思います。「光明寺 江東区」で検索してみてください。

浄土真宗のことや仏事について説明しています。また、お知らせや住職の日記など、人とお寺をつないでいけるような発信をしていきたいと思っています。

感想をお聞かせください!!

ホームページのアドレス

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>

QRコード→

